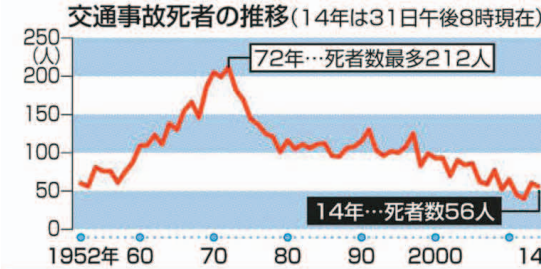


年	組	名前
---	---	----

交通事故死56人

2014年 前年を下回る 県内まとめ



2014年に県内で発生した交通事故による死者数は56人(31日午後8時現在)で、13年の60人を下回った。原因になるケースがほとんど。緊張感を保ってもらうため街頭啓発や取り締まりに力を入れる」と話している。

同課によると、人身事故の件数、負傷者数はいずれも前年より1割程度減少しており、10年連続で減少した。

死亡事故の原因別では、脇見や漫然運転といった前方不注意が24件でトップ。安全不確認は12件、速度違反は9件だった。

車両乗車中に死亡したのは19人で運転手が14人、同乗者が5人。バイク乗車中は12人、自転車乗車中は

2014年に大分県内で発生した交通事故による死者数は56人で、13年の60人を下回りました。

全体の6割近くを占めた。県警交通企画課は「運転手のミスや不注意が重大事故の原因になるケースがほとんど。緊張感を保ってもらうため街頭啓発や取り締まりに力を入れる」と話している。

同課によると、人身事故の件数、負傷者数はいずれも前年より1割程度減少しており、10年連続で減少した。

死亡事故の原因別では、脇見や漫然運転といった前方不注意が24件でトップ。安全不確認は12件、速度違反は9件だった。

車両乗車中に死亡したのは19人で運転手が14人、同乗者が5人。バイク乗車中は12人、自転車乗車中は

6人だった。歩行者は19人で道路横断中は13人。うち10人は夜間、事故に遭った。

県や県警は高齢者の事故を抑止しようと、10月から2カ月間、高齢者への啓発活動などを強化するキャンペーンを実施。期間中の事故総数は前年に比べ、2割程度減った。ただ、10月以降に亡くなった17人のうち高齢者は15人を占めた。

「高齢者の年間死者数は前年から7人減り、全体に占める割合も減少したが、依然、全体の6割弱を占めるのが現状。引き続き、最

優先で対策に取り組む」と同課。15年は高齢者との日頃の接点が多い民生・児童委員との連携を図っていくとしている。

(2015年1月1日朝刊31面)

①14年の交通事故死者のうち、自転車乗車中、歩行者はそれぞれ何人でしょう。

.....

.....

.....

.....

②死者は、最多の年と比べて何人減ったでしょう。

.....

.....

.....

.....

③事故ゼロのためには、どうすればいいでしょう。発表しよう。

.....

.....

.....

.....